

高校野球の勝利における先攻後攻と先制点の関係性に関する研究 In high school baseball victory, Study on the relationship of the batting first and batting in the bottom half of the inning and the point scored first

1K09B016

指導教員 主査 平田竹男 先生

板倉 勇気

副査 中村好男 先生

【背景】

高校野球界には「後攻有利説」と「先制点重要説」が存在し、筆者も高校野球を経験した中でこれらの定説を実際に感じてきた。しかしそれらが事実に基づくものなのか疑問があり、高校野球の勝利における先攻後攻と先制点の関係性を数値的に分析した研究も十分にされていない。

【目的】

高校野球界に存在する後攻有利説と先制点重要説が正しいのかを明らかにすると同時に、先攻後攻と先制点の視点から、より高い確率で勝つ戦い方を思案、提言することを本研究の目的とする。

【方法】

野球部に所属する高校生と元高校球児である大学生に対し、先攻後攻どちらが有利だと考えているかを把握するためのアンケート調査を実施する。また2006年から2012年までの全国高等学校野球選手権三重大会の7年間分の大会記録をもとに、全試合分、コールドゲームを除いた全試合分、延長になった全試合分、準々決勝以降の全試合分、準々決勝以降のコールドゲームを除いた全試合分、この5つの区分でそれぞれを分析し、先攻後攻別の勝利試合の割合を出す。さらに、同じ大会記録をもとに「先制点」を取ったチームの勝利試合数割合を分析し、その勝利試合における「先攻」「後攻」の割合を分析する。それに加えて、「先制点」を取った後、一度も同点もしくは逆転されずにそのまま逃げ切って勝利した試合数の割合、その試合における「先攻」「後攻」の割合も分析する。また準々決勝以降の区分においても同様の分析を行う。

【結果】

まず、高校生と大学生の意識調査では、高校生大学生ともに「後攻有利」の意識があることがわかった。延長戦の場合でも「後攻有利」だと考えている選手の方が圧倒的に多かった。しかし、先攻後攻と先制点が勝利とどう関係しているかを分析しその結果も踏まえると、全試合で見ると「後攻有利」と言える結果ではあったが、準々決勝以降に関しては先攻後攻で差はなく、延長戦の場合は「先攻有利」と言える結果が出たので、高校生、大学生が持っている意識がすべて事実に沿っているとは言えないことがわかった。特に「先攻有利」とわかった延長戦に関して、「後攻有利」という意識を高校生大学生ともに持っていることは非常に興味深いものであった。

先制点に関しては、先制点を取ることによって非常に高い確率で勝利につなげることができることがわかった。また、先制点を取ったチームが勝利した試合の試合展開をみると、一度も同点もしくは逆転されることなくそのまま逃げ切って勝つ場合の割合が大きいということもわかった。

これらの結果をまとめると、後攻有利説は全試合を対象としてみると間違っているとは言えないが、延長戦の場合などより細かい区分単位では後攻有利の傾向は示していない結果であったので、条件によって正しくもあり、間違っているとも言える。先制点重要説に関しては正しいと言える結果となった。

【考察】

延長戦で先攻勝利試合数が多くなっているのは、後攻側の攻撃姿勢の変化によるものだと考えた。先攻が点を取れなかったイニングにおいて、後攻チームに「この攻撃で0点でもまた次の回がある」という意識が生まれ、攻撃姿勢が本来よりも弱くなり、その結果自ら勝機を逃す場合があると考えたのである。よって、後攻チームが攻撃での意識の持ち方を変えずに戦えば、勝利試合数が増えると考ええる。また先攻チームに関しては今回の結果から、試合終盤で同点の場合選手起用など9回までに無理に勝負に出ることはなく、延長戦までもつれ込ませることによって勝つ確率を上げることができると提案する。

先攻後攻と先制点に関しては、「先攻後攻」よりも「先制点」の方が勝利のためにはよりポイントとなり、それにプラスして「できれば後攻」程度の意識で戦うことがよいと考えられる。ただし、準々決勝以降においては後攻有利とは言えないので、「後攻が有利」という先入観は捨て、「先制点」だけに集中して戦うことが求められ、先攻であることによる心理的な不安がない状態で戦えることができれば、その結果高い確率で勝利できることにつながると考える。これらの戦い方を、より高い確率で勝つための戦い方として提言することとする。

【結論】

後攻有利説は、条件によって正しいとも間違っているとも言え、先制点重要説は正しいと言えることが明らかになった。戦い方としては、「後攻」よりも「先制点」の方がポイントとなり、延長戦においては後攻側の攻撃の姿勢が勝敗に影響を与えると考える。